

伊藤清永記念館

開館30周年を祝う

10月20日、市立美術館「伊藤清永記念館」で、同館開館30周年記念式典を開催し、関係者ら約50人が、節目を祝いました。

1989年11月3日の開館以来、同館は、伊藤清永画伯らから旧出石町に寄贈された作品の保存や功績の顕彰、郷土の芸術振興の拠点となっています。式典では、同館の歩みをスライドで上映した他、画伯の子で画家でもある伊藤晴子さんらが講話。また、同館のロゴマークと出石高校の生徒が考案したキャラクターを発表しました。

《問合せ》市立美術館 ☎52-5456



▲地方の美術館の集客力向上には広報力、会場へのアクセス向上、もう一度来たいと思える雰囲気作りが大切と話す伊藤晴子さん

プチ勤務という働き方

お仕事大相談会

10月21日、豊岡市民プラザほっとステージで、プチ勤務のお仕事大相談会を開催し、子育て中の女性求職者32人と市内15事業所が参加しました。

プチ勤務とは、短時間・少日数勤務から始める働き方です。子どもの成長などに合わせ、労働時間や仕事内容などを変えていくのが特徴です。

市では「ありたい姿に向かって、いきいきと働く女性が増えている」姿を目指して、取り組みを進めています。

《問合せ》ワークインベーション推進室 ☎21-9004



▲求職者は15の事業所から四つを選んで、1事業所当たり15分の面談・相談

市政 ニュース

〈主な市政の動き〉

【10月】

- 11日・2019年度豊岡市戦没者追悼式
- 12日・豊岡市災害警戒本部設置（13日（台風19号））
- 15日・公共施設のあり方を考える市民懇談会（但東、16日・竹野、18日・城崎、23日・出石、24日・豊岡）
- ・ふるさと納税「ガバメントクラウドファンディング」の活用開始
- 16日・被災地（長野県上田市）の被災状況確認に先遣隊の職員派遣（17日）

【11月】

- 1日・本庁舎に首里城復元支援募金箱の設置
- 20日・豊岡地域木造家屋密集街区防災訓練
- 26日・新城崎大橋早期完成・集い
- 29日・秋季市政懇談会（竹野、31日・日高、11月1日・但東、5日・城崎）
- 31日・第70回記念豊岡市美術展（11月4日）



東京2020大会に向け

二つの実行委員会設立

10月25日、本庁舎庁議室で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿受入れや交流イベントの企画・立案などを進める「とよおか2020スポーツ実行委員会」を立ち上げました。本市は、ドイツとスイスのボート代表チームの事前合宿地に選ばれており、来年7月に両チームを迎えるための準備を進めています。また、来年5月24日に、市内で実施される聖火リレーの実行委員会も、併せて設立しました。

《問合せ》スポーツ振興課
☎21-9023



▲設立総会后、豊岡市スポーツ特別アドバイザーの上治丈太郎さんが講演

深さを持った演劇のまち・

豊岡を目指して

10月29日、本庁舎庁議室で、豊岡演劇祭実行委員会第5回総会を開催しました。総会では、9月6日から8日まで実施した第0回豊岡演劇祭の入場者数やリストバンド型電子チケットなどの社会実験の検証の他、来年9月に予定している第1回豊岡演劇祭の会場や演目数などの概要を報告しました。

引き続き開催した同実行委員会第4回企画部会では、豊岡演劇祭と地域の目指す姿などを協議しました。本市は、深さを持った演劇のまち・豊岡を目指します。

《問合せ》大交流課 ☎21-9081



▲第0回豊岡演劇祭では、入場者数が1,427人で当初予想の135.4%に、アンケートで約70%が「とても満足・満足」と回答などと報告

中貝市長の徒然日記 ⑬

沖繩でコウノトリを語る

11月上旬、沖繩に行ってきました。沖繩は、コウノトリ育むお米の最大の消費地です。

サンエーという同県最大の流通グループのショッピングセンターで扱っていただいています。生米はもとより、おにぎり、玄米弁当、米粉を使ったパン、すし酢等々が店頭に並んでいます。

「コウノトリはめでたいので、鏡餅と相性がいい。毎年売り切れです」、「ギフトでは化粧箱入りのコウノトリ米がバンバン売れます」、「今年から直営のどんかつ店でもコウノトリ米を使っています」。同社・中西専務の言葉です。

サンエー浦添店で「コウノトリがつなぐ但馬フェア」が開かれ、ほくも参加しました。フェアでは、朝倉山椒、香住ガニ、梨、カレイなども売られていました。この機会を利用して、同社社員の方々を対象にコウノトリ野生復帰の講演もさせていただきました。

2010年11月、ほくは宮

崎県綾町に招かれ、コウノトリの話をしていました。その会場にサンエーの土地社長がおられ、講演終了後、話しかけてくれました。「コウノトリの米を扱いたいのですが」

帰ってすぐにJAに話をつなぎ、12月末には店頭に並びました。異例の早さでした。以来販売量は年々増加し、今では年間316トンものコウノトリ米が沖繩で消費されています。消費の増加がコウノトリ育む農法を広げ、コウノトリの野生復帰を進めました。それを察してか、豊見城店の横の電柱に豊岡のコウノトリが止まったこともあります。沖繩は、私たちの恩人です。

首里城の焼失は、衝撃でした。11月1日、市役所総合案内に再建支援の募金箱を置きました。募金箱には、「コウノトリのまちから恩返し」と職員が書いてくれました。JAたじまの尾崎組合長は、100万円の寄付金を持ってフェアに駆けつけました。沖繩の人々が、この困難から立ち上がっていかれることを切に願っています。